



29 村瀬玉田

《水石契久之図》

一幅

明治二十二年（一八九九）

絹本着色

二二八・二×一四一・三

村瀬玉田（一八五二—一九一七）は京都に生まれ、村瀬雙石の門に入り絵を学んだ四条派の画家である。明治十三年に設立された京都府画学校に出仕した後、同十六年に東京へ移り、日本美術協会を中心に活動した他、明治宮殿の室内装飾をはじめ皇室の御用も多く手がけたことで知られる。

本図は、明治二十二年の日本美術協会美術展覧会で御買上となった作品である。画題の「水石契久」とは同年の宮中歌会始の御題であり、同協会は毎年の御題を展覧会出品物の画題のひとつに設定していた。この時明治天皇が詠まれた御製「さざれ石の巖とならむ末までも五十鈴の川の水はにこらじ」を意識したのか、玉田はそびえ立つ岩山とその間を流れる清流が描き、濃い緑青を基調とした青緑山水図に仕上げている。画中に人物は描かれず、画題の通り悠久の流れを刻む巨大な岩と美しく澄んだ水の流れが主眼となっていることが分かる。渓谷をつがいの鶴が舞い飛び、画面に霞のように薄く刷かれた金泥と相まって、本図には吉祥的な雰囲気を感じられる。

玉田は明治十四年の第二回内国博には、京都から作品を出品して妙技賞三等を受賞した他、明治二十三年の第三回では二等妙技賞、またその間に行われた第一回と第二回の内国絵画共進会でもそれぞれ銅印を受賞し、明治二十八年の第四回でも褒状を受賞するなど、輝かしい業績をのこしている。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

内国勸業博覧会 ― 明治美術の幕開け

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 57

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年四月二十一日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections